

## さやいんげん

農薬取締法上「さやいんげん」は「いんげんまめ」とは別の作物である。

「さやいんげん」には、「さやいんげん」「豆類（未成熟）」「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。

—— 発病・加害時期  
 == 発病・加害最盛期

| 作型・病害虫名 |   | 月 |   |   |    |   |    |   |   |   |    |    |    |  |  |  |  |  |
|---------|---|---|---|---|----|---|----|---|---|---|----|----|----|--|--|--|--|--|
|         |   | 1 | 2 | 3 | 4  | 5 | 6  | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |  |  |  |  |  |
| 普       | 通 |   |   |   | ●  |   | ■  |   |   |   |    |    |    |  |  |  |  |  |
|         |   |   |   |   | ●  |   | ●  |   |   |   |    |    |    |  |  |  |  |  |
| 灰       | 色 | か | び | 病 | —— |   |    |   |   |   |    |    |    |  |  |  |  |  |
| 炭       |   | 疽 |   | 病 | —— |   |    |   |   |   |    |    |    |  |  |  |  |  |
| さ       |   | び |   | 病 | —— |   |    |   |   |   |    |    |    |  |  |  |  |  |
| ア       | ブ | ラ | ム | シ | —— |   |    |   |   |   |    |    |    |  |  |  |  |  |
| マ       | メ | ハ | モ | グ | リ  | バ | —— |   |   |   |    |    |    |  |  |  |  |  |
| ハ       |   | ダ |   | ニ | —— |   |    |   |   |   |    |    |    |  |  |  |  |  |

## 灰色かび病

### 留意事項

- 1 発病適温は20～25℃である。
- 2 アミスター20フロアブルは、薬害のおそれがあるため、浸透性を高める展着剤を加用しない。
- 3 QoI剤<<11>>、SDHI剤<<7>>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

### 防除方法

- 1 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
  - ・ [セイビアーフロアブル20](#) <12> 【1000～1500倍 前日/3回】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [アミスター20フロアブル](#) <<11>> 【2000倍 前日/3回】
  - ・ [アフエットフロアブル](#) <<7>> 【2000倍 前日/3回】
  - ・ [ニマイパー水和剤](#) <1> <10> 【1000倍 収穫開始14日前/3回】

## 炭疽病（たんそびょう）

### 留意事項

- 1 QoI剤<<11>>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

### 防除方法

- 1 健全種子を用いる。
- 2 施設栽培では換気を徹底する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 3 密植を避け、通風を図る。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ファンタジスタ顆粒水和剤](#) << 1 1 >> 【2000倍 前日／3回】
  - ・ [ニマイバー水和剤](#) < 1 > < 1 0 > 【1000倍 収穫開始14日前／3回】

## さび病

### 留意事項

- 1 SDHI剤<< 7 >>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

### 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [アフェットフロアブル](#) << 7 >> 【2000倍 前日／3回】
  - ・ [ハーモメイト水溶剤](#) < NC > 【野菜類 800倍 前日／—】

## ウイルス病

### 留意事項

- 1 種子、アブラムシ類により伝染する。

### 防除方法

- 1 健全種子を用いる。
- 2 シルバーポリフィルムでマルチングを行い、アブラムシ類の飛来を回避する。
- 3 子葉展開時から有翅アブラムシ類の防除に努める。(アブラムシ類の項 参照)
- 4 生育初期に寒冷しゃのトンネル栽培を行う。
- 5 除草を徹底する。

## アブラムシ類

### 留意事項

- 1 スタークル粒剤、アルバリン粒剤は同一成分ジノテフランを含み、総使用回数は3回以内（但し、株元散布は1回以内、散布は2回以内）。

### 防除方法

- 1 シルバーポリフィルムでマルチングする。
- 2 下記の薬剤を施用する。
  - ・ [スタークル粒剤](#)、[アルバリン粒剤](#) < 4 A >  
【9kg／10a 株元散布 生育期（収穫開始14日前）／1回】
  - ・ [アドマイヤー1粒剤](#) < 4 A >  
【1～2g／株（但し、6kg／10aまで） 植穴土壌混和 定植時又はは種時／1回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 <4 A> 【2000～4000倍 前日／3回】
- ・ [アディオン乳剤](#) <3 A> 【3000倍 14日／3回】
- ・ [コルト顆粒水和剤](#) <9 B> 【4000～6000倍 前日／3回】
- ・ [ウララDF](#) <2 9> 【2000～4000倍 前日／2回】

## マメハモグリバエ

### 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [アディオン乳剤](#) <3 A> 【ハモグリバエ類 3000倍 14日／3回】
  - ・ [アフーム乳剤](#) <6> 【ハモグリバエ類 2000倍 前日／2回】
  - ・ [カスケード乳剤](#) <1 5> 【2000倍 前日／2回】
  - ・ [ダブルシューターSE](#) <-> <5>
    - 【豆類（未成熟） ハモグリバエ類 1000倍 前日／3回】

## ハダニ類

### 留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。

### 防除方法

- 1 乾燥するほ場では、十分かん水する。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 <1 3> 【2000倍 前日／2回】
  - ・ [ダニトロンフロアブル](#) <2 1 A> 【1000～2000倍 前日／1回】
  - ・ [ニッソラン水和剤](#) <1 0 A> 【2000倍 前日／2回】
  - ・ [サンクリスタル乳剤](#) <->
    - 【野菜類（除なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎく） 300～600倍 前日／-】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。